5.文献データベースによる日本語論文の先行研究調査
ーCiNii Researchを事例に



それでは、第５章「日本語論文検索のキソ CiNii Researchを事例に」へ進んでいきます。

適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野型 or 特定分野 / 日本語文献 or 海外文献 のマトリクス

分野	国内文献	海外文献
全分野	**CiNii Research**	Web of Science Scopus
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学	医中誌Web	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースのほうが一般的に、
・その分野に関して、収録論文が多い
・より高度な検索が可能
（シソーラス等⇒補遺参照）

これらは一例です。
附属図書館Webサイトのデータベース一覧を一度チェックしてみてください。

31

雑誌論文の情報を検索するためのデータベースは、2つの区分から選択するのが基本となります。
1つ目の区分は、全分野型か特定分野型かというもの。2つ目の区分は国内論文か、海外論文かというものです。

全分野型があれば特定分野型のデータベースは要らないのでは？と思われるかもしれません。
しかし、特定分野のデータベースの方が、その分野の論文が多く収録されており、また、より高度な検索機能があることが多いです。

CiNii Researchとは　https://cir.nii.ac.jp/

日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象

分野を限定せず、幅広く収録

検索機能は残念ながら強くないので、
工夫して利用する必要がある（後述）



事例としてCiNii Researchを使う理由

人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、
実質的にCiNii Research一択であるため

この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じるため

32

ここからは、CiNii Researchというデータベースを使って、具体的に日本語論文検索の方法を見ていきます。
CiNii Researchは、1つ前のスライドの表にあったように、全分野型のデータベースです。

CiNii Researchでは図書や博士論文も調べることができますが、ここでは雑誌論文を探すため、常に下のタブで論文を選択しておく、または全体で探した後で論文で絞り込むことを意識するようにしてください。

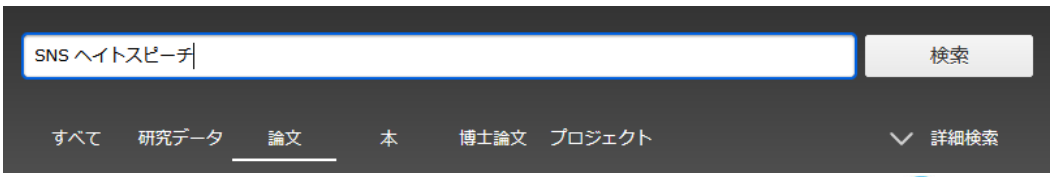
なお、余談なのですが、このCiNii Researchには、4章で紹介したCiNii Booksが含まれております。「本」というタブの中身が、CiNii Booksです。
しかし、いろいろと調べてみたところ、どうもCiNii Booksで検索した方が検索の精度が高いようです。CiNii Booksには、内容にかかわるBookデータベース、というものが入っているのですが、CiNii Researchのほうには入っていないこと、またCiNii Researchは多数のデータベースからデータを得ており、結果として同じ本を指すデータが複数収録されてしまっていることが理由かと思われます。
そしてCiNii Researchで表示された結果をクリックすると、結局はCinii Booksに飛びます。
こうした事情を踏まえ、論文ではなく図書を探す場合には、今のところ、CiNii Booksを検索していただいた方がよいと思います。

さて、論文の話に戻りましょう。
人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、ほぼCiNii Research一択となります。
今日ここで紹介する方法は、具体的な操作方法というよりも、検索の際のコツが中心なので、他のデータベースでも、同じような考え方で使っていただくことができます。

検索例題

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみとする



CiNii Researchで「SNS　ヘイトスピーチ」で論文を検索
→7件しかヒットしない。

もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



33

では、論文の検索をしてみましょう。日本語資料を対象に、「SNSとヘイトスピーチの関係性について」とうテーマで先行研究調査を行います。
まず思いつく2つのキーワード「SNS」と「ヘイトスピーチ」を入力して検索してみたところ、7件しかヒットしませんでした。

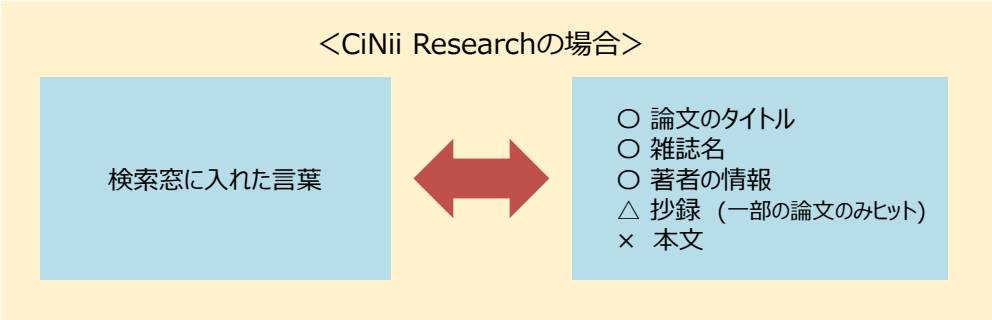
本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？
この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

※検索結果の件数は2024/6/17時点

ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」

検索窓に入れた言葉と、**論文タイトルなどで使われている言葉**が**完全に一致**すれば、検索結果として返ってくる



34

まず1つ目の検索のポイントは、データベースの検索方式に注意する、ということです。
CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」のデータベースに分類されます。
入力したキーワードそのものが、論文タイトルや雑誌名、著者の情報に入っていればヒットします。
入力したキーワードと少しでも違うと、ヒットしません。

ただし、CiNii Researchでは、末尾のS、英単語の複数形については無視しているようで、同じ結果を返してきます。
今回の例の場合、「SN」で検索しても、「SNS」で検索したのと同じ結果になります。

ポイント1：データベースの検索方式

完全に一致しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

「SNS　ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「ツイッター　ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「twitter　ヘイトスピーチ」→ヒットする

人の目で見れば、
関係のある論文なのは明らかなのに…

品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出

渡辺 創, Mondher Bouazizi, 大槻 知明 電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116 (407), 7-12, 2017-01

大阪大学で本文を探す　大阪大学OPAC

35

さて、完全に一致しないとヒットしない、とはどういうことでしょう。
例えば、画面上に表示されている「品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出」という論文は、探しているテーマに関係しているように思えますが、さきほどの検索ではヒットしませんでした。

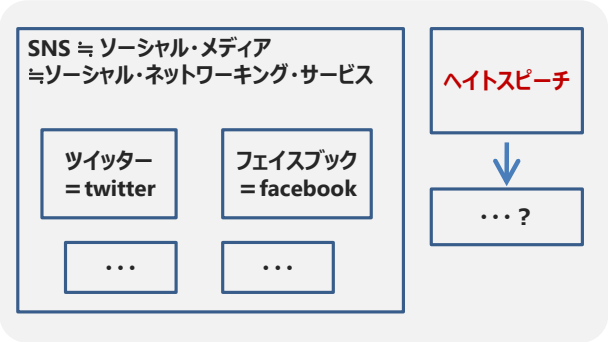
この論文は、「SNS スペース ヘイトスピーチ」や「カタカナのツイッター スペース　ヘイトスピーチ」ではヒットせず、「英語のtwitter スペース ヘイトスピーチ」とするとヒットします。
単純に、論文のタイトルに含まれているとおり、英語でtwitter、と入力しないとヒットしないのです。

そのため、次に挙げるような工夫が必要となってきます。

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択が非常に重要

同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみましょう

先ほどの例でも見たとおり、キーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択するかが重要となります。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語だけでなく、そのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、「SNS」というキーワードは、「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。また下位語としては、ツイッターやフェイスブックといった、具体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。さらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違いを考えてみる必要があります。

次に、「ヘイトスピーチ」というキーワードについても検討しましょう。自分で考えてみても、他のキーワードが見つからないときには、参考図書などを使って探してみるといいでしょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

例：JapanKnowledge Lib　複数の辞書・事典をまとめて検索できる

附属図書館Webサイト TOPページの検索窓上側の**「データベース」**タブから
自宅から使うときは検索窓下側の**「キャンパス外から電子リソースを使う」**から

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

科学技術振興機構(JST) 「シソーラスmap」
https://thesaurus-map.jst.go.jp/
科学技術分野の専門用語を中心に

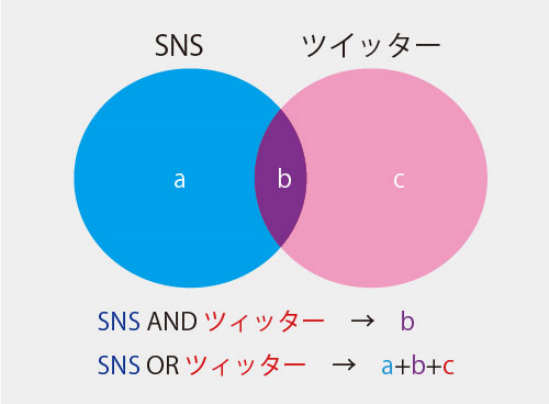
参考図書とは、百科事典や辞書などのことです。
参考図書にはオンラインで使えるものもあります。
例えばデータベース「JapanKnowledge Lib」は、複数の辞書・事典をまとめて検索できるサービスです。
JapanKnowledge Libは、自宅からも使うことができます。附属図書館WebサイトTOPページの蔵書検索の下側、「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスしてください。
個人IDとパスワードでログインすることで使えます。

また、便利に使える無料ツールとして科学技術振興機構の「シソーラスmap」もおすすめです。
ある単語の上位・下位の概念や、関連する単語を視覚的に得ることができます。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Researchでの入力方法
AND 検索	SNS△ツイッター 「SNS」と「ツイッター」両方のキーワードを含む資料を検索
OR 検索	SNS△OR△ツイッター 「SNS」もしくは「ツイッター」のどちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



文献データベース検索における3つ目のポイントは、論理演算を上手に使うことです。論理演算を駆使して、集めたキーワードを有効に活用しましょう。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索、この2つがあります。
AND検索は入力した全てのキーワードを含むもの、という検索です。CiNii Researchではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。
AND検索は、一般的な検索のイメージとして皆さんがお持ちの検索方法かなと思います。

もう一つはOR検索です。こちらは入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。
CiNii Researchではキーワードの間に「スペース 大文字のOR スペース」と入力することで、OR検索ができます。

単純に言いますと、AND検索は検索結果を減らすことにつながり、OR検索は増やすことにつながります。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する

より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、
・使用できる論理演算の種類
・その論理演算の入力方法
は異なります。
新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



39

ポイント1で見たとおり、CiNii Researchのようなキーワード検索方式のデータベースは、自分で入力したキーワードに完全に一致しなければヒットしません。必要な論文が検索結果から漏れてしまう恐れもあります。

そこで今回は、OR検索を活用しましょう。
ポイント2で得た複数のキーワードをOR検索を使って組み込むことで、より漏れが少ない形での検索ができます。

なお、データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法は異なります。
新しいデータベースを使うときは、まずヘルプページやマニュアルを確認してみることをお勧めします。

検索例題を実際にやってみよう

検索例題：
SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査
　―対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ
　―使用するデータベースはCiNii Research
　　https://cir.nii.ac.jp/

・検索式の中の「△」はスペース。
　半角でも全角でもOK。
・CiNiiでは( )で囲んだ箇所はグループとなって、
　検索式上で優先されます。
・ヒット件数は2024年6月17日時点

検索式①「SNS△ヘイトスピーチ」



40

それでは、ここまでご紹介した3つのポイントを踏まえて、実際に検索例題をやってみましょう。

先に少し触れましたとおり、「SNS スペース ヘイトスピーチ」では7件しかヒットしませんでした。間にスペースを入れることで、SNSとヘイトスピーチのAND検索をしていますね。
検索結果を増やすために、まずは「SNS」のほうの同義語、類義語、上位・下位語を検討します。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

・件数が明らかに少ないので、「SNS」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
・同義語として、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」と「ソーシャル・メディア」
・とくに広く使われている「SNS」としてtwitterとfacebookを下位語に想定。もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

検索式②

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△ヘイトスピーチ

13件

「SNS」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

・検索式「SNS」→約56,400件
・検索式「SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツィッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook」→約65,900件と増加

41

SNSの言いかえとして、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、ソーシャル・メディア、の2種類の同義語を用意しました。
また、とくに広く使われているSNSとして、twitter（今はXですが）とfacebookも使ってみましょう。
日本語論文であっても、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

そして、全てを「スペース 大文字OR スペース」でつなげます。()でくくると、その部分をグループ化することができます。今回はSNSという概念に関するひとつのグループを作り、()でくくります。
ここまで考えたSNSのグループと、ヘイトスピーチとのAND検索という形で改めて検索してみます。そうすると、結果は13件でした。残念ながらあまり増えていませんね。
ちなみに、SNSのみで検索すると約56,400件でした。
先ほど考えたSNSの同義語グループで検索すると9,500件ほど数が増えるので、「SNS」側のキーワードの広げ方としては悪くなさそうです。
では、次は「ヘイトスピーチ」のキーワードを広げてみましょう。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

・「ヘイトスピーチ」側のキーワードを広げることを考える

・関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使う

→JapanKnowledge Libで「ヘイトスピーチ」を検索したところ、「差別」「憎悪（＝ヘイト）表現」「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できた

検索式③

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツィッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイト△OR△差別△OR△表現の自由△OR△言論の自由)



42

自分では同義語などが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。
例えば、ジャパンナレッジで「ヘイトスピーチ」で検索してみたところ、「差別」「憎悪」つまりヘイト、「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できました。
これらを使って改めてOR検索を行ってみます。
ヘイトスピーチのほうもスペース大文字ORスペースでつなぎ、()でくくってグループ化すれば良いですね。「ヘイトスピーチ」という語は「ヘイト」で検索すれば必ずヒットするので、「ヘイト」の語にまとめてしまいましょう。
そして2つのグループをスペースで繋いでAND検索します。

そうすると111件でした。ある程度増えましたね。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

検索結果の論文タイトルを眺めていると
「規制」も関連キーワードとして使えるのでは
ないかと思われた
SNSを規制する議論が起こる背景の1つとして
ヘイトスピーチがあるのではないか、という推測



検索式④

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツィッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイト△OR△差別△OR△表現の自由△OR△言論の自由△OR△規制)

212件

43

ここで終えてもいいのですが、もう少し検索結果を広げる方法を考えてみましょう。その際にヒントになるのが、検索結果に出てきている論文タイトルなどです。検索結果を簡単に見ていくと、他にも使えそうなキーワードを得られることが多いです。ここでは「規制」も関連するキーワードとして活用できそうなので使ってみます。

ヘイトスピーチのグループのほうに「規制」をORで追加して検索してみると、212件まで増えました。
最初の7件に比べるとかなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、ここまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。
文献データベースを使っての検索は、キーワードや検索式を練ることがとても大事、ということを感じていただけましたか？

データベース検索で心がけること

予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認
キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだりする

検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単になる

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

データベース検索のTipsとして2つご案内しましょう。
1つ目は、予測と検証が大事、ということです。
キーワードや検索式は、ばらばらと思い付きで作成するのではなく、予測を立て、検証をしながら、改良をしていきましょう。

2つ目は検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。
いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分からなくなってきます。各検索式での件数を随時記録しておくと、検索式の調整を行いやすいです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではありません。研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査をスムーズに行えます。

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別する

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌　などをもとに選別する

無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある

100～200件程度ならば、人目でじゅうぶん選別可能

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち

→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、まんべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法は、本シリーズのもう1つの教材「フルテキスト入手法」で！

45

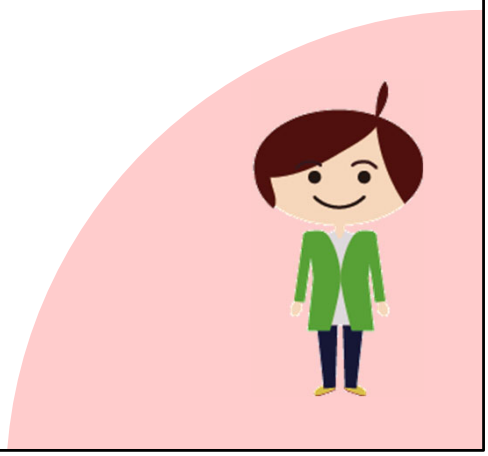
ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別を、自分の目で行います。
無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100～200件程度ならば、自分の目でざっとチェックできますね。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別をしていきます。CiNii Researchは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

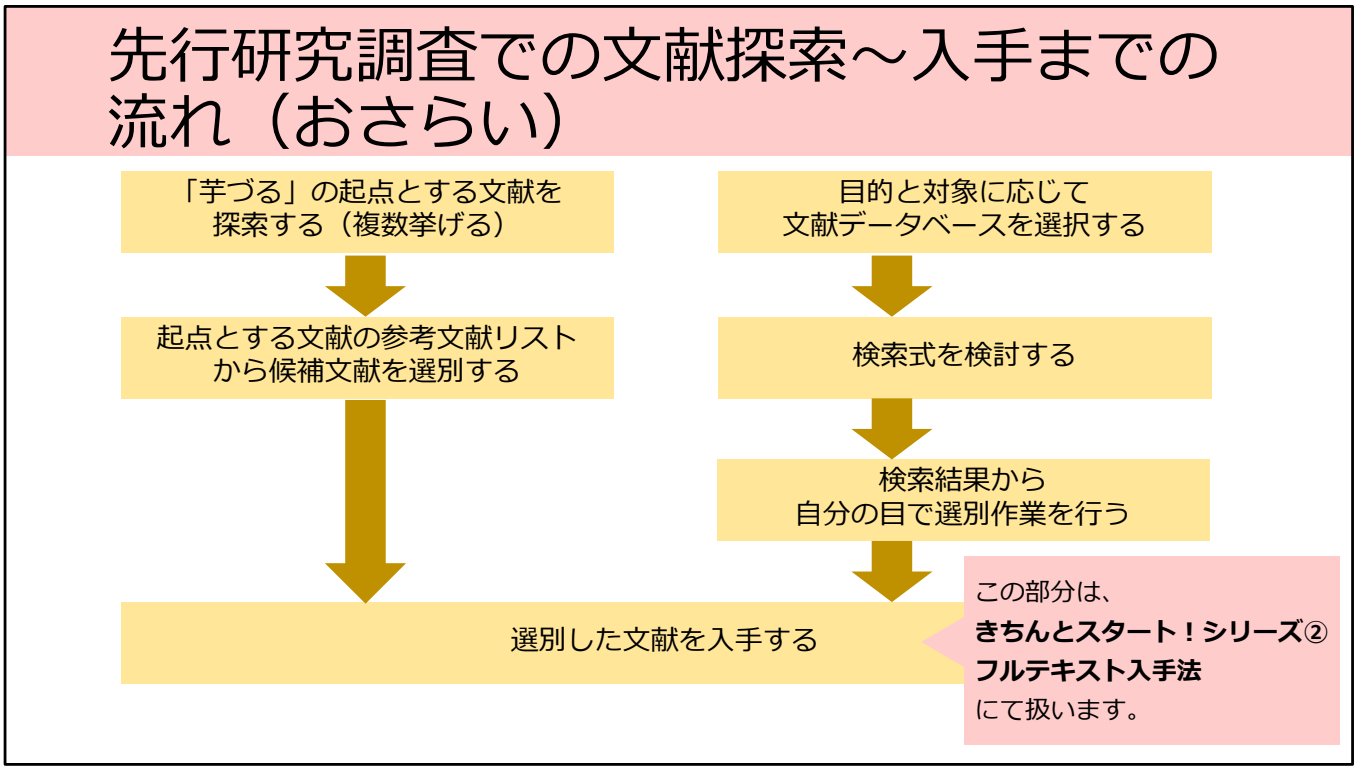
その時に、「入手できるかどうか」は選別基準に入れないでください。
データベース画面上ではどうしてもPDFファイルがあるものに惹かれがちです。
ただ、先にもお伝えしました通り、PDFファイルが読めなくても重要論文である可能性も大いにありますので、入手可否はひとまず考えずに選別作業を行いましょう。

そして、選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。
この入手作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。

まとめ



最後に、この教材のまとめです。



先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。全体像を理解できましたか？

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによる調査方法です。
片方の方法でしかうまく見つけることが出来ない文献もあるはずです。両方の方法をしっかり併用して、漏れの無い先行研究調査へとつなげてゆきましょう。

そして、今日読んだことをぜひ近日中にまずは実践してみてください。
何となく「ふむふむ」と読んでも、時間が経つと忘れてしまいますので、実際に手を動かして身に付けていただければと思います。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

職員がお待ちしています

平日9:00-17:00（事前予約不要）

オンラインやメールでの相談も受け付けます

- 適切なデータベースの選択
- それぞれのデータベースの使い方
- 検索式やキーワードの検討　　など



48

そして、実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思います。
その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。
カウンターは平日の9時から17時まで開いています。
また、メールやオンラインでの相談も受け付けています。

参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2021)『日本中世史入門：論文を書こう』増補改訂新版. 勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.